学力向上通信　Vol.58
「三重の学-Viva!!（まなびば）」
３月号

三重の 学（まな） Viva!!

3
2021

発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3571

※学-Viva：「Viva」は，「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

新型コロナウイルス感染症の影響により通常の年とは異なる状況において、各学校、各市町等教育委員会におかれましては、感染症対策を講じながら工夫して教育活動を進めていただいたことで、学習進度については、ほぼ例年通りの状況になっています。

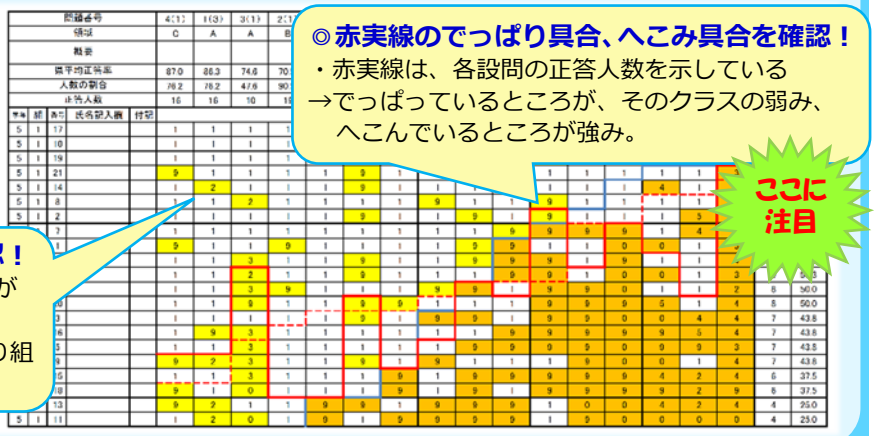
一方、学-Viva!!セット第１８弾（たしかめプリント）の結果から、小５算数の「倍の意味」（通常の年では５月に履修）や中１数学の「資料の活用（特に相対度数）」（通常の年では２月～３月に履修）などに課題が見られました。感染症の影響下においても誰一人取り残されることなく、子ども一人ひとりの学習内容の定着が確実に図られるよう、課題の改善に向けた取組をさらに進める必要があります。

●できていない問題を年度内にできるようにする取組を進めましょう●

●令和２年度第２回みえスタディ・チェックを活用した取組例

＜S-P 表の活用を！＞

・Ｓ－Ｐ表を活用し、県全体の状況や過去の状況と比較して、できている問題、できていない問題を明らかにする。



◎赤実線のでっぱり具合、へこみ具合を確認！
・赤実線は、各設問の正答人数を示している
→でっぱっているところが、そのクラスの弱み、へこんでいるところが強み。

ここに注目

◎黄色のマス目の問題を確認！
・その子にとって、比較的克服が容易な問題
→課題の中から、まず何から取り組むのが良いかがわかる。

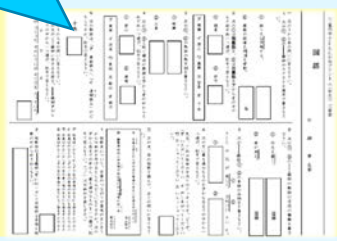
ここに注目

＜学-Ｖｉｖａ!!セット等の活用を！＞

・県が提供する教材（学-Viva!!セット、わかる・できる育成カリキュラム）等を課題の改善や、どれだけできるようになったかの確認に活用。

課題の改善に向けた取組を支援するための教材

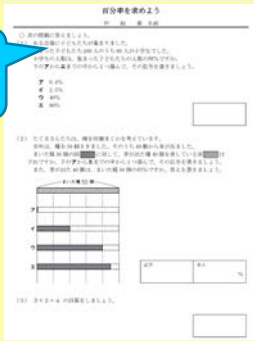
中学校２年生「国語（三省堂）」
言葉の特徴や使い方に関する事項が中心



①　学-Ｖｉｖａ!!セット第１８弾（たしかめプリント）

・小４から中３までの児童生徒を対象として、国語、算数・数学、理科の昨年度２月から本年度１０月までの各単元の基本的な学習内容で問題を構成した「たしかめプリント」を１０月下旬に全小中学校等に提供しました。「授業改善サイクル支援ネット」に結果を入力するとＳ－Ｐ表が作成できます。

小学校５年生算数
「百分率を求めよう」



②　学-Ｖｉｖａ!!セット第１９弾（つまずき克服プリント）

・小５、中２の児童生徒を対象として、これまでの全国学力・学習状況調査の分析結果から、国語、算数・数学の学習内容において特につまずきが見られる基本問題で構成したワークシート集（各教科１０シート程度で、１シート５分から１０分でできる内容）を２月下旬に提供しました。

・今回のワークシート集は、正答率５割から７割程度の問題で構成しています。全ての児童生徒が確実にできるようになるよう、各学校が年度末、年度初めにおける朝の短時間学習や授業、放課後の補習、家庭学習で繰り返し活用してください。

令和２年度第２回みえスタディ・チェックから　～成果と課題～

●第２回みえスタディ・チェックの前回からの改善状況を問題別に見ると、「できるようになった問題」と「できなかった問題」が明らかになってきます。問題別に改善状況をとらえ、「できなかった問題」を年度内に確実にできるようにする取組を、学校全体で進めていきましょう。

※表中の「今回」の県平均正答率は、２月 26 日時点の数値です。

第１回みえスタディ・チェックで出題された問題の、改善状況が確認できるようになっています

第１回みえスタディ・チェックで出題した問題を今回再度出題しました。**主語と述語の照応、小数の除法の意味、素数の積等に関する問題について改善が見られます。**各学校で、繰り返し指導を行うなど学習内容の理解・定着につなげる取組を進めてきた成果であると考えています。

成果

	教科	問題番号と問題概要	県平均正答率 今回	県平均正答率 過去	改善状況
小学校	国語	１二(1)1 文の主語を選択する<H31 第１回小４ 同一児童>	74.9%	65.2%	＋9.7
		１三 接続語を使って一文を二文に分ける	48.5%	27.8%	＋20.7
	算数	１(2) 1.5÷３の式で求められる問題をすべて選択する	52.3%	47.4%	＋4.9
中学校	国語	１一 主語と述語のつながりがあっていない文を正しく書き直す<H30 全国学調 同一生徒>	55.0%	33.5%	＋21.5
		１二 指示された述語に対応する主語を選択する（複文）	45.6%	34.8%	＋10.8
	数学	１(3) 30 を素因数分解する	54.4%	48.7%	＋5.7

読む力、基本的な計算、数学的な意味を理解することなどに課題がみられます

これまでの全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックで出題された問題のうち、課題となっていた問題を出題しました。主語と述語の照応や資料の読み取りなどの問題は改善が図られました。一方、**文章から必要な情報を見つけることや、基本的な計算等に課題が見られました。**

成果

	教科	問題番号と問題概要	県平均正答率 今回	県平均正答率 過去	改善状況
小学校	国語	１二(1)2 文の主語を選択する（複文）	58.1%	28.8%	＋29.3
	算数	２(1) 180°以上の角の大きさを求める<同趣旨>	71.0%	56.5%	＋14.5
中学校	国語	１七 封筒の宛名を書く	63.8%	59.1%	＋4.7
	数学	１(7) 資料を整理した図から最頻値を読み取る	64.8%	42.9%	＋21.9

課題

	教科	問題番号と問題概要	県平均正答率 今回	県平均正答率 過去	改善状況
小学校	国語	２二 新聞記事を書くために必要な情報を得るため、【資料】のどの段落を中心に読めばよいか選択する	67.2%	73.0%	-5.8
	算数	２(3) ４は 10 の何倍かを求める	44.1%	—	—
中学校	国語	３二 筆者が心がけていることとその理由を、指定された語句を用いて記述する（50 字～70 字）	40.2%	48.8%	-8.6
	数学	１(1) ２×（-３）^{2}を計算する	84.6%	89.0%	-4.4

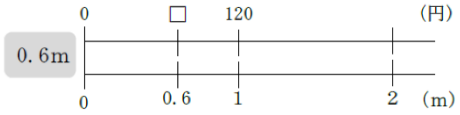
第２回みえスタディ・チェックの結果や課題の改善に向けた指導のポイントについては、「みえの学力向上県民運動」Web ページに掲載しますので是非今後の授業改善の参考にしてください。

学-Viva !! セット第１８弾で特に課題が見られた問題です。みえスタディ・チェックの結果とあわせて、年度内に課題克服の取組を進めましょう。

小５算数

５　１ｍのねだんが 120 円のリボンがあります。

（２）このリボン 0.6ｍのねだんはいくらですか。式を書いて，答えも求めましょう。



中２数学

１　ある中学校の２年生に対して，通学時間を調査しました。下の度数分布表は，その結果をまとめたものです。次の問いに答えなさい。

２年生の通学時間

階級（分）（以上　未満）	度数（人）
0 ～ 10	5
10 ～ 20	9
20 ～ 30	14
30 ～ 40	18
40 ～ 50	11
50 ～ 60	3
合計	60

（２）通学時間が 30 分以上 40 分未満である生徒の相対度数を求める式を答えなさい。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
令和２年度授業実践研修の取組から

今年度の授業実践研修は、1,070 人の受講者（初任者研修は 401 人、６年次研修は 406 人、中堅教諭等資質向上研修Ⅰは 263 人）が、 校種別・教科別に 114 班に分かれて、全４回実施しました。今年度は全４回を集合研修ではなく、ネット DE 研修や Web 会議システム「Zoom」を使った遠隔研修で行いました。（一部の班を除く）

授業実践研修は、各ライフステージで求められる資質能力を指標として示している「**校長及び教員としての資質の向上に関する指標**」の項目のうち、**児童生徒理解、授業力（授業計画、授業実践、授業改善）学校組織運営力（チームワーク　人材育成）**を該当項目として実施しています。

●小学校	●中学校	●高等学校	●特別支援学校及び小中学校特別支援学級担任班…10 班 ●異校種合同班
国語…15 班、社会…2 班、算数…26 班、理科…1班、体育…3 班、英語…2 班、道徳…2 班、プログラミング…1 班	国語…4 班、社会…5 班、数学…6 班、理科…4 班、保健体育…4 班、英語…６班	国語…１班、社会…２班、数学…2 班、商業…1 班、理科・農業…2 班、保健体育…2 班、理科・水産…1 班、英語…3 班	（小学校・中学校・高等学校）音楽…2 班、図工・美術…2 班、家庭・看護・福祉班…3 班 （中学校・高等学校）技術、工業…２班

◆授業実践研修の目標◆

・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業づくりの基礎について学び、授業改善に対する意欲を高める。
・子どもの学力向上をめざし、自らの授業改善と課題解決に向けて、主体的に研修に取り組む力をつけ、学校での自主的な研修への意欲につなげる。
・経験の異なる教員が研修班に分かれ、授業研究を通して、継続的な相互研鑽による授業改善を図るとともに、授業力の向上をめざす。

◆研修方法◆

・約 10 名で研修班を構成し、相互研鑽による授業研究を実施する。
・教科によっては、異校種合同研修班とする。
・県教育委員会事務局研修担当の研修主事１名がチューターとしてつき、班の運営、研修の助言をする。
・年間４回実施し、班別の年間計画、研修班テーマに基づき、研修を行う。
・研修班テーマをもとに、課題と改善策を明確にし、授業改善へつなげる。

●内容●

◎授業実践研修１
・**講義**…「学習指導要領において期待される学び」「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて」について学ぶ。
・**課題作成**…講義の内容をふまえ、班別のテーマ決定のために授業を通して子どもにつけたい力や自身の課題について考える。

◎授業実践研修２（研修班別研修）
・自己紹介、課題に対する交流、研修班テーマの決定、年間計画の決定

◎授業実践研修３・４（研修班別研修）
・ビデオ授業公開（６年研、中堅研Ⅰ）、事後協議
・実践報告、協議（初任研）

◎◎授業改善のポイント◎◎

○**見通しを持って**学習に取り組めるよう、**めあてを提示**し、**振り返り**を行っているか。

○**他者の考えを聞き、自己の考えを広げ深める場面**を設定しているか。（多様な表現手段や対話場面の設定）

○各教科等に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、より深く理解したり、問題を解決したりする、**習得・活用・探究という学びの過程**を取り入れているか。

「わかった！できた！」という子どもたちの笑顔につなげるために！

●受講者の声（アンケートより）●

◎授業実践研修１
・現在の学習指導要領では、「何ができるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が重要となってくることを改めて実感した。（初任）
・子どもたちが持つ知識や技能を「相互につなげる」「ある未知の状況・場面とつなげる」「目的や価値、手応えとつなげる」など、「つなげる」ことの大切さを感じることができた。（６年）
・これまでも導入での工夫はしてきたつもりであるが、生徒たちにとって「切実感のある課題」というものをどれだけつきつけられていたかというところでは大きく課題が残ると振り返ることができた。（中堅）

「Zoom」を活用した事後協議

◎授業実践研修２
・問題意識を持たせる手立てとして、導入の工夫、めあてや発問の明確化に努める。導入で児童の生活に結び付けた課題設定をし、この授業で何をするのか、学ぶのかを明確にしていく。（初任）
・考えや学んだことを表現する力、アウトプットする力については、まだまだ研修が必要だと感じていたのでテーマとなってよかった。（６年）
・テーマを決定するにあたり、班の先生方のめざしているところの共通点や重なる点を見つけて、分類、整理して提案するように心がけた。（中堅）

◎授業実践研修３・４
・中堅や６年目の教員の方からのアドバイスや授業に対する視点を知ることができ勉強になった。（初任）
・目標の提示と振り返りをしっかり行いたい。ルーブリック表など評価の工夫について学ぶことが多かった。（６年）
・授業実践研修３・４が Zoom で行われ、Jamboard などを活用して情報共有や研修を進めていく方法を学ぶことができたことは今後の授業や校内研修等にも活用できると感じた。（中堅）

学力向上に向けた

学力向上に向けた具体的な実践事例

【事例４２】紀州教育支援事務所の取組

～「オーダーメイドの支援」から見える学校の現状～

紀州教育支援事務所では、東紀州地域５市町の小中学生の学力向上のため、市町教育委員会や学校、校長会等に対し、教科指導などの教育課程に係る専門的事項の指導、支援等を行っています。その際には、状況に応じた「オーダーメイドの支援」と銘打ち、具体的な要請に応えた支援を行っています。また、市町教育委員会や校長会等からの要請にも応え、研修会での講義等の支援も行っています。

令和２年度の要請・支援事例を何点か紹介します。

若手教員への個別支援

若手教員の授業力向上や、現場での悩み解決のために、支援事務所の指導主事が指導教官的な役割を担い、継続的に授業参観及び指導を行いました。

具体的には、子どもが主体的に取り組める１単位時間の授業の進め方、学力向上に向けた効果的な家庭学習や教室掲示、生徒指導上の課題解決をめざす学級運営など、若手教員自身が抱える悩みを一緒になって考え、実践支援をしています。

新学習指導要領をふまえた授業改善、学習評価のあり方に関する支援

校内研修や教科研修会などの支援を行いました。

具体的には、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）」等を基にした学習評価等についての研修を支援しました。

また、小学校１・２年生国語に新たに加わった「長く親しまれている言葉遊び」として、「ふるさと三重かるた（三重県教委）」を紹介しました。

さらに、評価に関わって「観点別学習状況の評価」、「評定」、「個人内評価」についての理解、資質・能力の３つの柱の育成とバランスよく評価を行う必要性の理解などについての研修も行いました。

ＧＩＧＡスクール構想にともなう「１人１台端末」活用の支援

令和２年度中に１人１台端末が整備されることに伴い、令和３年度からの活用促進が各学校にとって喫緊の課題となっています。そのような中、ICT 活用促進に向けた研修の支援を行いました。

具体的には、「各教科等の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料（文部科学省）」や「ＩＣＴを効果的に活用した授業実践のために（三重県教委）」を基に、子どもたちに身につけさせたい「情報活用能力」についてのイメージが獲得できる研修等を実施しました。

その他、校内研修における指導・助言、学力向上に向けたデータ（S-P 表）の活用、主体的に学びに向かう力を育み自己実現につなぐ「キャリア・パスポート」の活用等についての研修の支援等も行いました。

今後も、この地域の小中学生の着実な学力保障・学力向上に向け、取り組んでまいります。

「オーダーメイドの支援」受講者コメントより

- 今年度、集合研修等がない中で、授業について指導教官とは違った視点で指導・支援してもらえ、視野が広がり非常に有意義だった。（小学校教員（初任者））
- 学習評価の観点の変更等については、保護者への理解を深める丁寧な説明を行う必要があると感じた。（中学校教員）
- 移行期間を経て新課程に入る新中学２・３年生と、小学校から完全実施を経ている新中学１年生とで、差が生じないようにしていきたい。（中学校教員）